

## 北上市チャレンジデー2017 いわて国体のレガシーを釜石へ！

北上市チャレンジデー2017は5月31日、市内各地を会場に行われました。

チャレンジデーとは、毎年5月の最終水曜日に世界中で実施されている住民参加型のスポーツイベント。自治体同士が、15分以上継続して何らかの運動やスポーツをした住民の参加率を競います。

今年の特対戦相手は、秋田県大館市。当日は午前6時30分から、北上総合運動公園や各地区の交流センターなどでオープニングイベントが行われました。同イベントでは、5月27日にキッズラグビークリニックで市を訪れた、ラグ



ゲートボールの始球式を行う有森さん(右)

ビーニュージーランド代表チーム元主将リッチー・マコウ氏のサイン入りボールが各地区に手渡されました。

同イベントを皮切りに、バルセロナオリンピッククマラソン銀メダリストの有森裕子さんが市内17カ所を回りウォーキングやダンスなどの運動を実施。市内企業や自治協議会、老人クラブ連合会、競技協会、幼稚園、保育園、小・中学校、高校、専門学校など多くの皆さんが運動に取り組みました。

また、ラグビーワールドカップ2019の開催を見据え、ニュージーランドマタマタ市からマタマタ市長と親交の深いタッパー家族が来日。市内各所を巡り、運動を通じて市民と交流を深めました。来年度のチャレンジデーはマタマタ市との対戦を予定しています。

さらに、希望郷いわて国体を期に、国立競技場から北上陸上競技場に譲り受けた座席の一部を同ワールドカップ2019の開催地である釜石市までリレーマラソンで運ぶ「国立競技場・いわて国体の



リレーマラソンに参加した皆さん

レガシーを釜石に」が行われました。ランナーには市民と釜石市民ら16人が参加。第1走者の有森さんが午前8時に本庁舎をスタートし、ランナーらの背中に背負われた座席は午後6時、約90kmの距離を経て野田武則釜石市長のもとに無事届けられました。

対戦相手の大館市には惜しくも0・9%の僅差で敗れましたが、過去最高の参加率を達成することができました。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。

	北上市	大館市
参加者数	61,068人	49,547人
人口	93,287人	74,635人
参加率	65.5%	66.4%

## 街路灯のLED化や 新設に対する補助金

地域の負担と環境負荷の低減を図るため、自治会などが行う既設街路灯のLED化およびLED街路灯の新設に対して補助を行います。

### ■補助対象者

自治会など

※行政区のほか、地域住民の福祉増進を目的とした当該地区住民により組織されている町内会、自治会その他の住民自治組織。

### ■補助対象工事と補助金額

補助対象工事は左表のとおりで、工事費の4分の3に相当する額が補助金額です。ただし、予算の範囲内での交付となり、工事の内容により左表のとおり限度額があります。

補助対象工事	補助金限度額
電柱または電話柱などへのLED灯具(※)の新設	37,500円
専用柱およびLED灯具(※)の同時新設	67,500円
既設のLED以外の灯具をLED灯具(※)に交換する場合	37,500円
既設のLED灯具(※)を交換する場合	28,100円
既設の専用柱を交換する場合	28,100円

※ 20ワット以下の自動点滅器付きのもの

### ■申請期間

7月21日(金)まで

### ■申請方法

既設街路灯を所有する自治会などには、あらかじめ関係書類を送付していただきます。既設街路灯を所有していない自治会などが新たに街路灯の設置を希望する場合は、道路環境課にお問い合わせください。申請多数の場合は、予算の範囲内で調整を行います。

### ■問い合わせ

道路環境課 ☎72-8272

## 二子さとも協議会設立

### G-I保護制度登録に向けて一致団結

二子さとも協議会設立総会および同協議会通常総会は5日、二子地区交流センターで行われました。

同協議会(小原富美雄会長)は、市と県南広域振興局、中央農業改良普及センター、花巻農業協同組合が連携し、二子さとももの生産振興・品質向上と、地理的表示(G-I)保護制度の登録を目的に設立が進められてきました。設立総会には、関係者と市内の生産者52人が出席。議決をもって同協議会が発足しました。

代に入った。次の世代につなげていくため、良い協議会にしていきたい」とあいさつ。同協議会は今後、一月以内

に登録申請を行い、本年度中の登録を目指します。同協議会は栽培実証試験や食味検査の実施、先進地研修など、二子さとももの品質向上に向けてさまざまな活動を行っていきます。また、新規栽培者の受け入れ態勢についても整備を行い、減少傾向にある生産者の拡充に向け、種いもの供給体制の検討や説明会なども行っていく予定です。

※地理的表示(G-I)保護制度が始まり、農業は新しい時代

## 洛陽市人民政府代表団来日

### ポタンの花で交流育む

洛陽市人民政府代表団は5月25日・26日、市を訪れました。

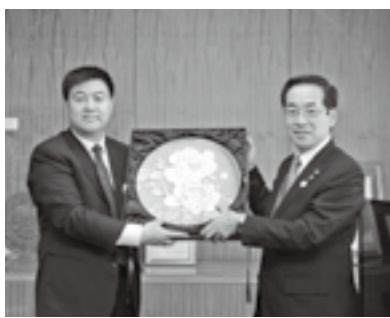
洛陽市は中国河南省に位置する都市です。市は、洛陽市から平成13年と18年に洛陽市の市花であるポタンの苗木の寄贈を受けるなど、交流を続けてきました。今回、洛陽市

人民政府の委ろうかいほう副市長を団長とし、5人の代表団が農業視察などを目的に24日から28日の間来日。市内では、和賀川ふれあい広場の洛陽市友好牡丹園などを視察しました。また、本庁舎を表敬訪問した一団から、ポタンが描かれた絵皿が市に贈られました。

度：地域特性を生かした産品を知的財産として国が保護しようとするもの。全国では35品、県内では前沢牛のみが登録されている(29年6月19日現在)。



選出されあいさつする協議会役員



高橋敏彦市長に絵皿を手渡す委副市長(左)

## 北上市が先駆モデルに



市の産業振興アドバイザーであり、明星大学経済学部教授、そして一橋大学名誉教授の関満博先生が、この度、全416ページで全編市の産業政策を記した著書「地方創生時代の中小都市の挑戦」出版された。タイトルは「地方創生時代の先駆モデル・岩手県北上市の現場から」である。関先生は1948年に富山県に生まれ、成城大学大学院で経済学博士を取得し、東京都職員として勤務、同時に地方の工業都市の産業集積について研究を始めた。初めて当市を訪れたのは1990年。同書の中で当時の印象について、独自で巨大な北上工業団地を整備している当市を「全く異質」と表現している。

市は、伊達藩と南部藩それぞれの辺境にあったため、宿

場町としての機能と農業が主たる産業であり、極めて貧しい地域であった。その貧しさをバネに昭和初期から当時の黒沢尻町を中心に企業誘致の動きを始めている。そのために、黒沢尻工業高校を町の2年分の予算をかけて誘致したほどだ。企業誘致が本格的に動き出したのは1954年の町村合併による北上市誕生以降であるが、歴代市長を始め、市を挙げて必死に企業誘致を展開した結果が、都市の住み良さランキング岩手県7年連続第1位である現在の市をつくり上げている。

今般の出版は市にとってはこの上ない喜びである。本書を読んだ市民は改めて「まち」を育てた先人への尊崇の念を抱くとともに大きな誇りを感じると思う。また、市が今、進んでいるシティプロモーションの最強のツールを得たことにもなり、関先生には感謝しきれない。もうすぐ70歳を迎えようとしておられるが、まだまだ元気に全国を飛び歩き、地域や企業を元氣付けておられる。いつまでもお元氣で、これからもご指導いただきたいと思います。